

1. 事業の位置付け

事務事業名	青少年国際交流事業		
事業担当	健康・こども部 青少年課		
予算科目	01-030105-050000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	03	③ <交流> ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる	
	02	2 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市内在住の中学生、高校生	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： 国際交流協会、派遣団0B・0G】		
目的・目標		事業の概要	
姉妹都市との交流を通じ、両市の青少年が相互理解を深め、両市青少年及び参加青少年同士が活発な交流活動を展開しています。		青少年育成及び青少年活動の促進ため、姉妹都市ローレンス市との青少年交流の機会を提供し、両市における相互理解と国際親善を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	交流会開催回数						単位	回
	説明・算定式	派遣団修了者で構成される青少年団体が、自発的に企画・実行又は参加したイベントなどの回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		4	4	4	4	4	4	
	実績		4	4					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	青少年団体加入率						単位	%
	説明・算定式	派遣団修了者で構成される青少年団体へ加入した派遣青少年の割合							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		100	100	100	100	100	100	
	実績		100	100					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
ローレンス市青少年訪問団の受入れにより、市民団体・青少年団体・学校との活発な市民交流が展開されました。また、ローレンス市へ本市青少年を派遣したことで、自ら進んで国際交流できる青少年の育成と青少年活動の活性化が実現され、ひと・文化の活発な交流が広がる環境づくりに寄与できました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	派遣については毎年募集人数を上回る応募があり、外国青少年の受入れについても、市民及び市民団体、学校などから積極的な交流要望があるほか、姉妹都市提携の面からも市の関与が不可欠であり、必要性があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業継続による派遣団修了者の増加や、受入れ時における各種交流機会の提供は、青少年指導者層の拡大や青少年活動の活性化に効果があり、青少年健全育成を実現する方法として有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	近年では気軽に海外旅行ができ、また民間の企画でホームステイも体験できますが、本事業では実施後も青少年相互交流が図られ、青少年指導者育成も実現されていること等から、市が実施する妥当性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	派遣については、他事業に比べ一人当たりの育成にかかるコストパフォーマンスが悪く、また、必ずしも参加者全員が派遣後の青少年交流や活動に携わってくれないなどの課題があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

海外派遣の目的として指導的役割が果たせる青少年の育成や青少年活動の活性化があるため、一人でも多くの修了者に継続して青少年活動に取り組んでもらえるよう一層の活動の場を提供するとともに、青少年リーダーとして活躍できる環境の整備や仕組みづくりが求められます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			交流会の開催	交流会の開催	交流会の開催	交流会の開催	交流会の開催	交流会の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	402	466	350	350	350	350
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
	一般財源	0	5,254	5,295	5,614	5,614	5,614	5,614
	事業費 (A)	0	7,456	7,561	7,764	7,764	7,764	7,764
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.85	0.85	0.80	0.80	0.80	0.80
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	7,133	7,133	6,685	6,685	6,685	6,685
フルコスト (A+B)		0	14,589	14,694	14,449	14,449	14,449	14,449

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 国際交流や海外派遣に対する市民のニーズがあり、ローレンス市側からも強い交流希望があります。	
平成22年度の実行方針	
派遣事業の応募者拡大に努めるとともに、派遣団員の青少年活動への積極的な参画を図るため、参加者には事業の主旨を十分理解してもらえよう取り組みます。	
課長コメント	海外交流事業は、受入と派遣事業を実施することで、青少年の資質向上と将来を担う青少年の育成を図ることから、事業実施後の活動を推進していくが求められます。よって参加者の意識を図るためのサポートが必要である。応募者の拡大を図りながら、事業は継続していきたいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		ローレンス市訪問団の受入により、市民団体・青少年団体・学校などを介した活発な市民交流が展開され、また、ローレンス市へ本市青少年を派遣したことで、国際感覚を有する青少年の育成と青少年活動が活性化され、ひと・文化の活発な交流が広がる環境づくりに寄与できた。	ローレンス市青少年訪問団の受入れにより、市民団体・青少年団体・学校との活発な市民交流が展開されました。また、ローレンス市へ本市青少年を派遣したことで、自ら進んで国際交流できる青少年の育成と青少年活動の活性化が実現され、ひと・文化の活発な交流が広がる環境づくりに寄与できました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		海外派遣の目的に、指導者的役割が果たせる青少年の育成や青少年活動の活性化があるが、派遣団修了者で構成された青少年団体の活動は最近やや停滞気味にある。一人でも多くの修了者に派遣後も継続して青少年活動に取り組んでもらえるよう、一層の活動の場を提供するとともに、青少年リーダーとしての活躍できる環境の整備や仕組みづくりが求められる。	海外派遣の目的として指導的役割が果たせる青少年の育成や青少年活動の活性化があるため、一人でも多くの修了者に継続して青少年活動に取り組んでもらえるよう一層の活動の場を提供するとともに、青少年リーダーとして活躍できる環境の整備や仕組みづくりが求められます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		派遣団員の派遣後の青少年活動への積極的な参画を図るため、募集時における海外派遣研修の主旨を、応募者に十分理解してもらえよう、PRを工夫する必要がある。	派遣事業の応募者拡大に努めるとともに、派遣団員の青少年活動への積極的な参画を図るため、参加者には事業の主旨を十分理解してもらえよう取り組みます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	国際交流活動推進事業		
事業担当	市民部 文化・交流課		
予算科目	01-030106-120000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	03	③〈交流〉 ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる	
	02	2 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める	
根拠法令等			
対象・受益者	姉妹都市市民・外国籍市民・留学生・市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 市民・外国籍市民 <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
姉妹都市市民・外国籍市民・留学生・市民などが、交流会などを通じて、活発な交流を行っています。		異文化理解により自国の文化を高めるため、市民主体の様々な交流事業を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	交流会等開催回数						単位	回
	説明・算定式	交流会開催、ホームステイ受入れ等回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		4	4	4	4	4	4	
	実績		4	4					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	交流会等参加者数						単位	人
	説明・算定式	交流会参加者、ホームステイ受入れ人数等							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		200	200	200	200	200	200	
	実績		210	246					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
留学生や姉妹都市からの青少年派遣団などのホームステイの受入れや市民交流会の開催を行い、異文化理解が深められました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	国際化の進展に伴い、市民の国際理解と国際感覚の醸成のニーズが高まっており、異文化に身近にふれることができる当事業の必要性は高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多くの市民が参加し、異文化理解を深めるためにも、情報提供を幅広く行い、継続的に事業を行うことが必要です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	国際化の進展に伴い、異文化理解を深めるためにも、多くの市民が手軽に参加することができる事業展開を行っているため、事業実施については妥当であります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	市はサポート的なことを行い、事業は市民及び市民ボランティアにより実施しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析				
国際交流事業により多くの市民が参加してもらえるようにその機会や事業実施について工夫し、幅広く情報提供を行う必要があります。また、姉妹都市についても交流会や紹介展などを通じ更に市民にPRを行っていく必要があります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			各種交流会の開催 やホームステイの 実施など	各種交流会の開催 やホームステイの 実施など	各種交流会の開催 やホームステイの 実施など	各種交流会の開催 やホームステイ、 20周年記念事業の 実施等	各種交流会の開催 やホームステイの 実施等	各種交流会の開催 やホームステイの 実施等
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,240	1,240	1,150	4,150	1,150	1,150
事業費 (A)		0	1,240	1,240	1,150	4,150	1,150	1,150
執行率 (%)		—	—	—				
内 訳	職員 (人)	0.00	0.20	0.35	0.55	0.55	0.55	0.55
	再任用 (人)	0.00	0.40	0.00	0.35	0.35	0.35	0.35
人件費 (B)		0	3,050	2,937	5,804	5,804	5,804	5,804
フルコスト (A+B)		0	4,290	4,177	6,954	9,954	6,954	6,954

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
○現状の規模で継続 ●拡大して継続 ○縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合	
<判断理由> 市民の国際理解と国際感覚の醸成及び文化の発展を主目的としていることから、継続的な事業の展開が必要です。平成22年は、姉妹都市提携20周年記念事業を実施し、事業拡大をする方向であります。	
平成22年度の取組方針	
事業の内容、効果などを見直すとともに、より効果的な経費配分についての検討を行います。 なお、22年度は、姉妹都市20周年記念事業として、ローレンス市代表団の受け入れ事業を実施します。	
課長コメント	より多くの市民が国際理解と国際感覚の醸成を深めていくためにも、平塚市国際交流協会の自主性、独自性の下に展開される交流事業等を継続的に支援していきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		留学生や姉妹都市からの青少年派遣団などのホームステイの受入れや市民交流会の開催を行い、異文化理解を深めた。	留学生や姉妹都市からの青少年派遣団などのホームステイの受入れや市民交流会の開催を行い、異文化理解が深められました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		国際交流事業により多くの市民が参加してもらえるようにその機会や事業実施について工夫し、幅広く情報提供を行う必要がある。また、姉妹都市についても交流会や紹介展などを通じ更に市民にPRを行っていく必要がある。	国際交流事業により多くの市民が参加してもらえるようにその機会や事業実施について工夫し、幅広く情報提供を行う必要があります。また、姉妹都市についても交流会や紹介展などを通じ更に市民にPRを行っていく必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	拡大して継続
取組方針		事業の内容、効果などを見直すとともに、より効果的な経費配分についての検討を行う。	事業の内容、効果などを見直すとともに、より効果的な経費配分についての検討を行います。 なお、22年度は、姉妹都市20周年記念事業として、ローレンス市代表団の受け入れ事業を実施します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	外国籍市民交流推進事業						
事業担当	市民部 文化・交流課						
予算科目	01-030106-140000			事業種類	○ ハード ● ソフト		
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち					
	03	③ <交流> ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる					
	02	2 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める					
根拠法令等							
対象・受益者	市民・外国籍市民			事業期間			
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： 市民・外国籍市民 】						
目的・目標				事業の概要			
市民と外国籍市民とが様々な交流を通じて相互に理解し合い、多文化共生の社会が形成されています。				異文化への理解を高めるため、国際交流イベントをはじめ、語学教室や国際理解講座などを開催します。			

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	日本語講座等語学教室開催回数						単位	回
	説明・算定式	日本語講座、語学講座、日本語ボランティア養成講座等各種語学教室の開催回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		698	510	510	510	510	510	
	実績		661	534					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	日本語講座等語学教室受講者数						単位	人
	説明・算定式	各語学講座等の受講者数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		154	210	210	210	210	210	
	実績		246	273					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
平塚市国際交流協会へ委託し、市民レベルの国際交流事業や外国籍市民が暮らしやすくするために日本語教室・日本語ボランティアフレッシュアップ講座などを実施し、多文化共生社会の進展に成果が得られました。 また、国連協会平塚支部が実施する「国際理解・国際協力のためのポスター・作文コンテスト」を助成し、市民の国際理解、異文化理解の推進に成果が得られました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民の国際理解、異文化理解を進めるとともに外国籍市民が暮らしやすくするための支援事業は、多文化共生社会の発展を図るうえからも必要性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多文化共生社会の発展を図るためには、継続的に事業を行うことが必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	より多くの市民参加や外国籍市民への情報提供のあり方等の検討も必要です。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	市はコーディネートを担当し、事業活動については、市民及び外国籍市民との協働により進めています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 外国籍市民との交流事業により多くの市民、外国籍市民に参加してもらえるように工夫し、事業の定着及び安定化を目指します。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			国際交流イベント、講座、教室などの開催	国際交流イベント、講座、教室などの開催	国際交流イベント、講座、教室などの開催	国際交流イベント、講座、教室等の開催	国際交流イベント、講座、教室等の開催	国際交流イベント、講座、教室等の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,930	1,930	1,770	1,770	1,770	1,770
事業費 (A)		0	1,930	1,930	1,770	1,770	1,770	1,770
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.10	0.60	0.35	0.35	0.35	0.35
	再任用 (人)	0.00	0.50	0.00	0.35	0.35	0.35	0.35
人件費 (B)		0	2,554	5,035	4,133	4,133	4,133	4,133
フルコスト (A+B)		0	4,484	6,965	5,903	5,903	5,903	5,903

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 市民と外国籍市民とが様々な交流を通じて相互に理解し合い、多文化共生社会が浸透していくには、国際イベントをはじめ、日本語教室や国際理解講座などの継続的な事業展開が必要です。	
平成22年度の取組方針	
前年等の事業の内容、結果等に基づき、より効果的な事業の実施や経費配分についても見直して事業を行っていきます。	
課長コメント	多文化共生社会の浸透には、市民の国際理解、異文化理解につながる事業の継続性が必要であるが、交流事業等では、外国籍市民との協力をより深めていくことで、効果的な運営を進めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		平塚市国際交流協会へ委託し、市民レベルの国際交流事業や外国籍市民が暮らしやすくするために日本語教室・日本語養成講座などを実施し、多文化共生社会の進展に成果が得られた。 また、国連協会平塚支部が実施する「国際理解・国際協力のためのポスター・作文コンテスト」を助成し、市民の国際理解、異文化理解の推進に成果が得られた。	平塚市国際交流協会へ委託し、市民レベルの国際交流事業や外国籍市民が暮らしやすくするために日本語教室・日本語ボランティアブラッシュアップ講座などを実施し、多文化共生社会の進展に成果が得られました。 また、国連協会平塚支部が実施する「国際理解・国際協力のためのポスター・作文コンテスト」を助成し、市民の国際理解、異文化理解の推進に成果が得られました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		外国籍市民との交流事業により多くの市民、外国籍市民に参加してもらえるように工夫し、事業の定着及び安定化を目指す。	外国籍市民との交流事業により多くの市民、外国籍市民に参加してもらえるように工夫し、事業の定着及び安定化を目指します。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		前年等の事業の内容、結果等に基づき、より効果的な事業の実施や経費配分についても見直して事業を行っていく。	前年等の事業の内容、結果等に基づき、より効果的な事業の実施や経費配分についても見直して事業を行っていきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	友好都市交流推進事業						
事業担当	市民部 文化・交流課						
予算科目	01-030106-130000	事業種類	○ ハード ● ソフト				
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち					
	03	③ <交流> ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる					
	02	2 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める					
根拠法令等							
対象・受益者	市民・企業			事業期間			
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： 市民・企業 】						
目的・目標				事業の概要			
高山市、花巻市、伊豆市と平塚市の市民や企業との交流が活発に行われています。				文化やスポーツ、産業を発展させるため、友好都市などと幅広い交流を行います。			

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	交流事業実施回数						単位	回
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		15	15	15	13	15	13	
	実績		16	13					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	交流事業参加者数						単位	人
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		320	320	340	320	340	320	
	実績		376	312					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	②：若干遅れている								
	遅れている理由	隔年2事業が開催年ではありませんでした。							
平成20年度の主な取組と成果									
友好都市及び市民休養の郷と市民交流、市民ツアー交流、スポーツ交流、小学生交流等の事業を行い、友好交流を図ることができました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	産業、文化、スポーツなどを通じて交流することは、相互の産業発展や文化の醸成につながり、必要性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	都市間交流を継続することは、豊かな人間性をはぐくむうえで有効です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	実施事業によっては、受益者負担の見直しも検討する必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	既存事業について、より効率的な交流内容や経費の見直しを検討する必要があるとともに、市民に参加してもらえる新規事業を企画する必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 より多くの市民に参加してもらえる既存事業の見直し及び新規事業の検討並びに市民休養の郷の在り方を検討していく必要があります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			市民ツアー、キャンプ、物産展などの開催	市民ツアー、キャンプ、物産展などの開催	市民ツアー、キャンプ、物産展などの開催	市民ツアー、キャンプ、物産展等の開催	市民ツアー、キャンプ、物産展等の開催	市民ツアー、キャンプ、物産展等の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	3,388	3,433	3,244	3,244	3,244	3,244
事業費 (A)		0	3,388	3,433	3,244	3,244	3,244	3,244
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.20	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.25	0.25	0.25	0.25
人件費 (B)		0	10,070	7,133	7,966	7,966	7,966	7,966
フルコスト (A+B)		0	13,458	10,566	11,210	11,210	11,210	11,210

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める中で豊かな心をはぐくむためには、今後とも市民ツアー交流、スポーツ交流、小学生の交流などの幅広い都市間交流の継続性が必要です。	
平成22年度 of 取組方針	
事業の内容、効果などを見直すとともに、より効果的な経費配分及び受益者負担の見直しを行います。	
課長コメント	相互理解と友好親善の継続は、豊かな人間性をはぐくむうえからも有効であることから、より効率的で市民に魅力ある事業を展開していけるよう努めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	②：若干遅れている
主な取組と成果		友好都市及び市民休養の郷と市民交流、市民ツアー交流、スポーツ交流、小学生交流等の事業を行い、友好交流を図ることができた。	友好都市及び市民休養の郷と市民交流、市民ツアー交流、スポーツ交流、小学生交流等の事業を行い、友好交流を図ることができました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		より多くの市民に参加してもらえる既存事業の見直し及び新規事業の検討並びに市民休養の郷の在り方を検討していく必要がある。	より多くの市民に参加してもらえる既存事業の見直し及び新規事業の検討並びに市民休養の郷の在り方を検討していく必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		事業の内容、効果などを見直すとともに、より効果的な経費配分及び受益者負担の見直しを行う。	事業の内容、効果などを見直すとともに、より効果的な経費配分及び受益者負担の見直しを行います。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。